



フォルクハルト・シュトイデ

ヴァイオリン

Volkhard Steude (Violin)

1971年ライプツィヒ生まれ。5歳より東ドイツ(当時)ブランデンブルク州コトブスの音楽学校でヴァイオリンを学ぶ。1987年に東ドイツのジュニア向けコンクールで第2位獲得。1988年からベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学にてヨアヒム・ショルツとヴェルナー・ショルツ教授の下で学び始める。国際コンクールで受賞を重ねる。

1993年にはグスタフ・マーラー・ユーゲントオーケストラの第1コンサートマスターになる。1994年3月にベルリンの大学でディプロム取得の後、ウィーンに移り、アルフレート・シュタール教授の下で更に研鑽を積む。

1994年11月にはウィーン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターに弱冠23歳で就任。更に2000年からはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務めている。

日本にはトヨタ自動車主催による『トヨタ・マスター・プレイヤーズ・ウィーン』のコンサートマスターとしても度々来日しており、多くのファンを獲得している。

また、ウィーン・フィルでは、ジュゼッペ・シノーポリやダニエル・バレンボイムの指揮によりソリストとしても共演しているほか、ヨーロッパと日本で数多くのソロ活動を展開(ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲と三重協奏曲、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲ホ短調と二重協奏曲ニ短調、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲イ長調とニ長調、シンフォニア・コンチェルト、シベリウスのヴァイオリン協奏曲、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲など)。その多くが放送用にライブ録音され、またCDとしてリリースされている。

室内楽にも熱心に取り組んでおり、2002年からはウィーン・フィルのメンバーで構成される室内楽アンサンブル、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンのコンサートマスターも務める。また同じく2002年にシュトイデ弦楽四重奏団が結成され、ウィーン楽友協会定期演奏会を開催するほか、ヨーロッパ内及び日本で度々ツアーを行うなど、その活動は非常に注目を集めている。

使用楽器は1718年製のアントニウス・ストラディヴァリウス(ヴィオットェィ、ロゼらがかつて所有)で、オーストリア国立銀行より貸与されている。

■ 広島交響楽団 定期演奏会 出演記録

2013年10月 第333回定期演奏会 ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲、交響曲第8番

2015年11月 第354回定期演奏会 メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲ホ短調、ベートーヴェン:交響曲第5番